

2025 年度人文学部 FD 活動報告

人文学部（学部全体）

人文学部では、ハラスメントの理解と防止に向けて、南山学園ハラスメント対策委員会での対応の流れ、防止に向けた取り組みなどを学ぶことを目的に、2025 年 10 月 8 日に人文学部主催 FD 講演会「南山学園におけるハラスメント防止の取り組み」を開催し、南山学園ハラスメント対策委員会委員長の緒方桂子先生（法学部）からご講演いただいた。

内容は、南山学園ハラスメント対策委員会の体制、訴えが生じた場合の委員会での対応の流れ、ハラスメント防止に向けた取り組みなどである。各大学における体制には違いがあり、たとえば広島大学では相談室に弁護士ほか専門スタッフを 3 名おき、ほかに役職者によって形成された委員会などもあるとのことだった。一方で南山学園ハラスメント対策委員会は一般教員からなる委員会体制で、初期には調停と懲戒の対応を分けず、聴き取りをしながら対話的な解決を目指す方向をとっていることが紹介された。教員 40 名が参加し、講演後の質疑応答も含めて、今後のハラスメント防止や学生支援を考えるために貴重な機会となった。

学科ごとの主な取り組みを以下に報告する。4 学科ともそれぞれの実情と課題に応じて、日常的・恒常的な FD 活動に加え、複数の企画や方策を実施することにより、授業と教育の改善に向けた取り組みを着実に積み重ねている。

キリスト教学科

2025 年 4 月に新入生オリエンテーション合宿を実施した。学科教員の紹介、学科の特徴や魅力、学習内容、学生生活へのアドバイスなどを教員と学生スタッフが新入生に語り、交流をもつことで新入生が充実した大学生活を始められるようにすると共に、学生指導にも役立てた。また 2026 年 1 月に「研究プロジェクト発表会」、「卒業生歓送会」、「次年度ゼミ説明会」を開催し、教員と学科学生との間の質疑応答、交流、親睦の機会を設け、学生指導に役立てた。これらの行事の立案と実行の過程で、学生の視点も重視しながら、よりよいカリキュラムや授業方法、指導方法について検討している。また年度末には学科 FD 懇談会を開いて、授業実践や学生指導に関する情報共有を行った。

人類文化学科

人類文化学科では、2025 年度の FD 活動方針に基づき、以下のような活動を行った。

① 2023 年度から開始し「内部質保証委員会」からも一定の評価をされた「1 年生からゼミ選択をサポートする体制作り」として「1 年生向けゼミ紹介」「2 年生向けゼミ紹介」を 2025 年度も継続して行った。

② 「学科アンケート」の総数を増やす方策を検討した。2023 年度：提出率 48.9%（94 名中 46 名）、2024 年度：提出率 61.7%（123 名中 76 名）、2025 年度：提出率 66.6%（117 名中 78 名）で、今年度の提出率は前年度と比べて微増であった。

③ 「学科科目の再確認」というシリーズものの学科 FD の会については実施できなかったが、その原因は、2025 年度途中で外国人教員が 1 名体調不良で帰国をして退職するとい

うアクシデントがあり、この教員が担当していたが実施されなかった講義内容の学習会を学科会議で何度も議論し合い、苦心の末、ボランティアで学科教員による複数の学習会を企画し実施した（単位にはならないが）ということがあった。この際の学科での話し合いは、学科に臨機応変な機動力をつけるためのFDだったと位置づけられるであろう。

心理人間学科

心理人間学科では、①多様な機会をとらえて学生、授業の情報を共有すること、②新設された「学科IR委員」によるデータ収集分析に基づき、学科教育の向上に学科全体で取り組んでいくこと、③学科ディプロマ・ポリシーに関する学生の到達度の把握と評価の方法を検討していくこと、を2025年度の活動方針とした。

①については、毎回の学科会議で学生に関する様々な情報を共有し、指導上の助言なども交換し合った。WebClass上に、研究プロジェクトやゼミ配分など、学科教育上の情報を学生に提供する「学科フォルダ」を置いて運営しているほか、今年度からは「教員フォルダ」を新たに設置し、学科会議資料を掲載したり業務の引継ぎ事項を掲載したりするなど、利便性を図っている。

②については、昨年度末に実施した「心理人間教育研究会（教員合宿）」で各種データの活用方法を話し合ったほか、新入生アンケートのデータの分析結果を教員に供したりしてきた。

③については、今年度末の「心理人間教育研究会（教員合宿）」において、「基礎演習ICDのアンケートの結果報告」、「2025年度心理人間学基礎演習IIBの実施内容とアンケート調査結果の報告」、「卒業予定者アンケートの結果報告」を共有し合い、現状の把握と改善の方向性を探る予定である。

日本文化学科

日本文化学科では、日々のFD活動として、学科の教育のあり方を学科会議などで常に話し合うとともに、「全学アセスメントの結果を踏まえた自己点検・評価ミーティング」と題したイベントを2025年6月11日に開催し、当該調査の結果をどう学生指導に生かしていくかを話し合った。アンケートの実施方法に若干の問題があることが指摘されたが、以下のような要検討点が浮上し、今後対策を考えていくこととした。

「予習・復習」「自主的な学習」の時間については回答の幅が大きいが、学生がこの質問で何を「予習・復習」「自主的な学習」と理解するかで回答にぶれが生じるので、その実態について、学生への丁寧な聞き取りなどが必要であろうと思われる。ただ「自主的な学習」の時間が0時間という学生が一年生を中心に少なからず見られることは改善を要する課題で、サポートの方法を考える必要があるだろう。

また、DPの認知度の低さについては、入学時のガイダンス、一年次の必修授業などで告知することが話し合われた。

以上のように、具体的な対策については今後試行錯誤していく必要があるが、具体的なアンケートの数値によって学生の実情・問題点がある程度見えてきたことは大変有益であった。

以上